

令和6年度 第4回郡山市総合教育会議 次第

日時：令和7年3月21日（金）15時00分～15時45分
場所：郡山市役所 庁議室

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 議 題
 - (1)特別支援教育等について
 - (2)小1プロブレムへの対応について
- 4 閉 会

令和6年度 第4回郡山市総合教育会議 出席者名簿

役職名	氏名
市長	品川 萬里
教育長	小野 義明
教育長職務代理者	藤田 浩志
教育委員	阿部 亜巳
教育委員	見越 大樹
教育委員	佐々木 貞子

(敬称略)

【備考】開催方式：対面会議 会議公開：YouTube配信

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第一条の四第六号に基づき公開

議題 1 特別支援教育等について



日本国憲法第二十六条第1項

すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。

第4期 郡山市教育振興基本計画 (基本目標)

- 1 個性を伸ばし生きる力を育む学校教育の推進
- 2 家庭や地域と一体となった豊かな学校教育環境の形成
- 3 未来へつなぐ教育機関の充実
- 4 社会全体で取り組むこどもの学びや育ちの支援

2025年度 郡山市の学校教育推進構想

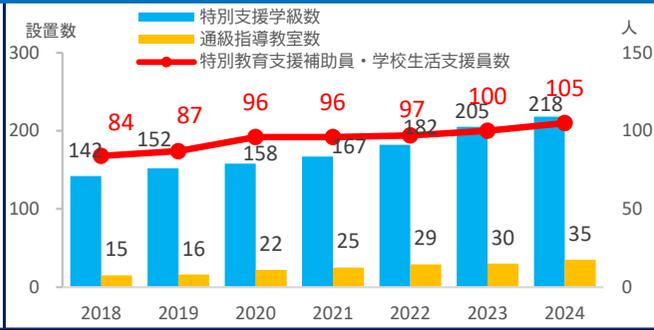
どの子どもも思う存分学べる環境づくりに努めます

- ・多様性に対応する特別支援教育の推進
- ・人的支援による指導・相談体制の充実
- ・幼保小の連携教育の推進

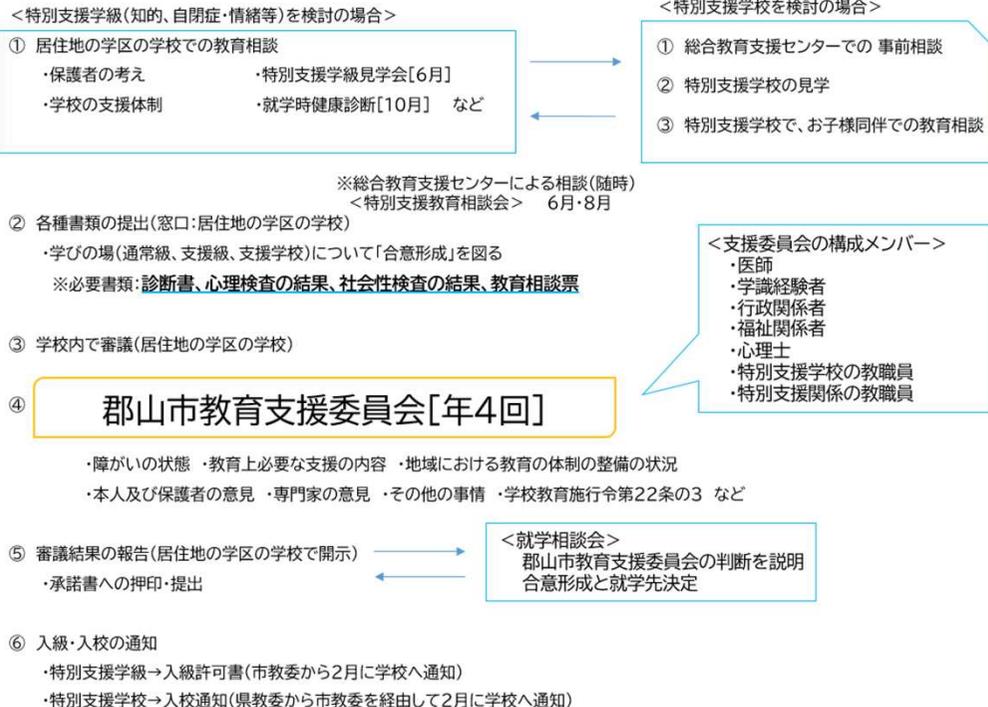
【児童生徒数・学級数】

【特別支援学級在籍者数・通級指導教室通級者数・通常学級要支援者数】

【特別支援学級数・通級指導教室数・支援員数】



【適切な学びの場】を決定するまでの流れ



市教育支援委員会審議件数

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
児童生徒数	25,617	25,204	24,609	24,457	24,426	24,318	24,147	23,914
件数	296	332	324	348	391	532	516	563 (+47)
割合	1.16%	1.32%	1.32%	1.43%	1.60%	2.19%	2.14%	2.35%

令和6年度特別支援教育巡回相談事業実施状況 (R7.1月末現在)

主な内容	小学校	中学校	未就学児	高校生 その他	合計
電話相談	303	43	134	27	507
巡回訪問	42	21			63
巡回相談(特別支援学級)	10	1			11
巡回相談(通常学級)	9	0			9
校内研修	1	0			1
ケース会議	6	0			6
教育相談	175	13	40		228
SCによるカウンセリング(センターで実施)	2	0			2
合計	548	78	174	27	827

※ 医療的ケア児等コーディネーター関係相談 12件 巡回訪問 12件

令和6年度特別支援教育に関する研修

期日	講座名	講師	参加人数
4/12(金)	通級指導担当者研修会①	総合教育支援センター指導主事	23名
4/18(木)	特別支援学級新任担当者支援研修会①	総合教育支援センター指導主事	29名
5/9(木)	校内教育支援研修会(特別支援教育コーディネーター)	総合教育支援センター指導主事	76名
5/22(水)	特別支援教育補助員等研修会①(主管:総教セ)	総合教育支援センター所長・指導主事	103名
5/31(金)	特別支援学級新任担当者研修会②	あぶくま支援学校教諭	29名
5/31(金)	通級指導担当者研修会②	総合教育支援センター指導主事	18名
7/22(月)	通常学級における特別支援教育講座	名城大学教授 曾山 和彦氏	261名
8/2(金)	通級指導担当者研修会③	総合教育支援センター指導主事	20名
8/23(金)	特別支援教育補助員等研修会②(主管:総教セ)	総合教育支援センター指導主事	105名
9/29(金)	ユニバーサルデザイン教育講座(特支補助員研修③)	新潟大学教授 長澤 正樹氏	209名
10/24(木)	特別支援学級担任等講座	福島県特別支援教育センター指導主事	174名
参加人数合計			1047名

●幼保小連携推進事業「合同研修会、相互参観協議会」

【幼保小連携推進事業】就学前後の円滑な接続を図るために、幼稚園・認定こども園・保育所(園)・小学校が実践面で連携し、相互参観等の交流事業を実施する。
(事業内容) 幼保小合同研修会、幼保小相互参観協議会、【郡山市版】「幼保小の架け橋プログラム」策定委員会等

令和6年度 幼保小連携推進事業

第3回 幼保小合同研修会

日時 令和6年7月17日(水) 午後3時～午後4時40分
場所 郡山市役所 特別会議室(対面研修)

教育講演

「特別支援教育について」

～個に応じた支援を図るための幼保小連携～

郡山女子大学 家政学部 生活科学科
教授 小林 徹 氏



小林先生は、今年度より「【郡山市版】幼保小の架け橋プログラム」の委員として、ご指導をいただきます。

講師の小林先生は東京都の中学校教員として、特別支援学級を25年間担当されました。2022年より郡山女子大学家政学部生活科学科教授として特別支援教育の障がい児保育について講義をされています。また、郡山市教育支援委員会の委員として郡山市の子どものための就学について貴重な意見をいただいております。今回は、特別支援教育について、適切な支援を図るためにはどのように幼保と小が連携を図れば良いのかを、先生の豊富な経験をお聞きしながらご指導いただき実践のヒントを学びました。幼保小合同研修会では、5年ぶりの対面研修で、多くの方が参加されました。

※参加者→幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校関係者等 100名

【講演の主な内容】

- 郡山市の幼保小連携
- ライフステージを見通す
- 特別な教育的ニーズ
- 支援の難しさ
- 大好きなものの力を借りて
- 個と集団を考える
- 生涯発達について



望ましい連携の姿とは

連携する者どうしが、よく知り合う。(同じところ・違うところ)お互いの違いを尊重しながら、一緒に取り組める部分を考え、具体的に実践する。連携が取れていると安易に満足しない。自治体における連携においては、連携が維持・継続できるように行政が積極的にバックアップする。特別支援教育の充実を図るための取組の方向性

幼稚園等においては、日々の園での活動や生活の中で考えられる困難さに対する指導や支援の工夫の意図、手立ての例を具体的に示すことが必要である。

【アンケートから～参加者の声～】

- 障がい名ではなく、その子にどんな困難さがあるのかという視点から見つめ直していきたいと感じました。様々な豊富な事例から子どもたちの姿、そしてそのとらえ方を学ぶことができました。(小学校 教諭)
- 困った行動の裏側には、様々な意味がある。その意味を探るために、保育の現場ではよく観察すること、情報、記録が大切という言葉に、改めて自分の保育を見直していきたいと思った。“人間は一生成長する”というのを忘れず、大切に保育にあたっていきたい。(保育所 保育士)

も楽しみと手立て



スモールステップは「小さな階段」いきなり目標に到達するわけではないので、ニースに合った手立てを考えよう。

令和6年度 幼保小連携推進事業「授業と保育の相互参観(協議会)」

第1回協議会だより《北方部》

令和6年6月4日(火) 15:00～16:40 総合福祉センター 研修室2・3

【実践発表】 郡山市立行健第二小学校

「幼児教育を踏まえたスタートカリキュラムの実践」～安心して学校生活を送るために～



行健第二小学校の実践発表では、初めて「幼保小架け橋プログラム」について触れ、就学前後は生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期であることを示しました。本校のスタートカリキュラムでは、幼稚園、保育所等で育まれた「10の姿」を全職員で共有し、育まれた資質・能力が円滑に接続できるように生活科を中心とした合理的な指導や生活面、家庭や地域、幼稚園等との連携について立案されています。この計画に基づいて1週ごとに学習予定表を作成し、保護者に対してもこれらを周知することで、家庭の協力を得ながら実践しています。具体的には、2年生や6年生との交流活動や運動会等について、スライドを通して伺いました。上記中央写真は、近隣の保育園児が体験入学に訪れた様子です。黄色い帽子の子が園児で、一緒に音楽の授業を受けています。黒板には「がっこうはたのしいよ なかよし」とメッセージがありました。丁寧に温かく対応している姿勢に感動しました。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ 行健第二小学校の発表について

- ・入学した1年生が安心して学校生活を送るために、全職員が共通理解を図りスタートカリキュラムを実践していることがわかりました。異学年交流では、互いに学びあうことや達成感等も養われることと思います。
- ・幼稚園、保育所児童の学校訪問を積極的に受け入れていいる姿勢が素晴らしいです。子どもたちが実際に学校を見ることで、子どもたちの不安も解消され、円滑な接続に有効であると思います。コロナで訪問ができなかったが、これを機に再開できればと思います。
- ☆ テーマ「幼児教育を踏まえたスタートカリキュラムの実践」～安心して学校生活を送るために～について
 - ・子どもたちの育ちをよく理解するうえで、就学児健康診断の時期よりも早い段階で、幼稚園、保育所等と就学予定先の学校間で、保育士と教諭が面談をする機会を設けるなどの情報交換が必要ではないか。

《参加者からのアンケートから》

- ・小学校の先生方も、日々子どもたちのためにより良い生活を考えてくださっていることに感謝します。幼保小の関わりや情報交換の重要性を感じました。(幼稚園:参加者)
- ・行健第二小学校のスタートカリキュラムや異学年交流について、とても参考になりました。また、校長先生が複数参加され直接お話を伺うことができ、とても貴重な機会でした。(保育所:参加者)

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。

令和6年度 幼保小連携推進事業「授業と保育の相互参観(協議会)」

第3回協議会だより《東部部》

令和7年1月14日(火) 14:30～16:40 郡山市役所 正庁

【実践発表】 並木幼稚園

遊びや生活を通して育まれる資質・能力について～遊びの連続性を見通したアプローチカリキュラムの実践～ 就学に向けた幼保と小の情報共有について



並木幼稚園の教育目標は「子ども第一主義 子どもの笑顔を最優先」です。子どもたちが主体となって遊びや活動を展開することで、生涯にわたって生きる力の基礎をつくる資質・能力を育てています。本園のアプローチカリキュラムは「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に基づき作成し、学びの質を高めるよう環境構成して、遊びや生活の充実を図っています。いくつか実践事例の紹介があり、また、上記左の写真は、敬老の日手紙を出したことがきっかけで、郵便屋さんごっこが始まり、自主的にポストやはがきを作って、遊びを展開した内容です。活動を通して役割やルール、文字や数字なども覚え、「10の姿」の協同性や社会生活との関わりが育まれました。小学校との連携では、大島小学校と交流を図っています。体験後子どもたちの感想を聞くこと、期待とともに不安もあるので、先生方は安心して入学できるように子どもたちの気持ちに寄り添って関わってほしいと話していました。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ 並木幼稚園の発表について

- ・遊びの中で考えたことや話し合ったことをもとに活動や行事を進めており、子どもの主体性を大切にしていることが素晴らしいので、各園でも行事等を見直していきたいと思います。
- ・小学校との連携については、ねらいや目的を明確にして計画しており、まず職員が小学校と話し合い、次に授業体験、体験後に振り返りを行う等、丁寧な交流をしていると感じました。
- ☆ 「幼保小の架け橋プログラム」に期待することについて
 - ・「気になる子の支援」「保護者対応」「小1プロブレムの実態と具体的な対応」「アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの活用状況」の視点で話し合いました。視点をともに話し合うことで現在の課題が明確になり、それぞれの立場での想いを共有することができました。

《参加者からのアンケートから》

- ・幼保小の先生方が架け橋プログラム策定に向けて、課題を浮き彫りにできて大変有意義な研修会でした。質の高いグループ討議ができました。(幼稚園:参加者)
- ・子どもたちの土台には幼保の育ちがあることを再認識しました。幼保では子ども主体で遊びを通して学んでいくが、小学校は主体ではあるものの教科等の枠組みで学んでいくことを考えると、今回のような話し合いの場は大切で、スムーズな接続が実現すると思う。(小学校:参加者)

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。

●幼保小連携推進事業「幼保小の架け橋プログラム」 郡山市制施行100周年記念事業

令和6(2024)年度 郡山市の学校教育推進構想

《目指す郡山の子ども像》

高い志を持って自立し、他と協働して未来を拓く子ども

基本方針 SDGsを郡山の子どもたちから

「誰一人取り残されない」教育の推進

～一人一人の多様なウェルビーイングの向上のために～



連携教育の推進に努めます

2 幼保小の連携教育の推進

- (1) 幼保小の合同研修会や相互参観の実施
- (2) 「スタートカリキュラム・アプローチカリキュラム」の活用と実践
- (3) 【郡山市版】「幼保小の架け橋プログラム」の策定
 - ・小1プロブレムの解消に向けた教育活動の充実

(H21) 郡山市幼保小連携推進事業開始

(H26) 「郡山市版スタートカリキュラム」作成

(R4) 「【改訂】郡山市版スタートカリキュラム」作成

幼保小の架け橋プログラム (文部科学省)

「幼保小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期(義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間)にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指すもの。



文部科学省では、令和4年度から3か年程度を念頭に、全国的な架け橋期の教育の充実とともに、モデル地域における実践を並行して集中的に推進していくこととしている。

【郡山市版】「幼保小の架け橋プログラム」

【目指す方向性】

幼保小が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や小学校学習指導要領で育成を目指す資質・能力、及び郡山市の実態を視野に入れながら、【郡山市版】「幼保小の架け橋プログラム共通の視点」を策定する。その共通の視点を基に、各幼保小においてそれぞれの実態に即した「架け橋期のカリキュラム」を協働で作成し、幼保小の先生と一緒に振り返って評価しながら、改善・発展させていく。

【郡山市版】「幼保小の架け橋プログラム」の内容

- (1) 幼稚園・保育所等と小学校の協働による「幼保小の架け橋プログラム共通の視点」を基にした「架け橋期のカリキュラム」の作成及び改善・発展
- (2) 幼保小の活動の共有と交流
 - ① 幼保小連携に向けた活動の共有
 - ② 幼保小連携の強化に向けた活動の共有と交流の充実
- (3) 学びを支える環境づくり
 - ① 地域の実態の把握
 - ② 地域や人、物との関わりを通した学びの環境活用・発信

共通の視点



【郡山市版】「幼保小の架け橋プログラム」の実践

令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	以降
	授業と保育の相互参観・協議会 ・各施設の実践発表を主とした協議会	授業と保育の相互参観・協議会 ・各施設の実践発表をもとに幼保小の交流を深める協議会 ・「架け橋期のカリキュラム」の検討を主とした協議会	授業と保育の相互参観・協議会 【「架け橋期のカリキュラム」マネジメント協議会】 ・「架け橋期のカリキュラム」の作成を主とした協議会	
	幼稚園・保育所等と小学校の協働による、本市における「架け橋プログラム『共通の視点』」を基にした「架け橋期カリキュラム」の作成及び改善・発展 ・策定検討委員会による検討・策定			
	幼保小の活動の共有と交流 ・幼保小連携に向けた活動の共有		幼保小の活動の共有と交流 ・幼保小連携の強化に向けた活動の共有と交流の充実	
	学びを支える環境づくり ・地域の実態の把握			
	学びを支える環境づくり ・地域や人、物との関わりを通した学びの環境活用・発信			